

令和7年度 地方独立行政法人大阪産業技術研究所 第1回 経営諮問会議
議事概要

1 開催日時

令和7年8月8日(金)10:00～12:15

2 開催場所

大阪産業技術研究所 森之宮センター3 階 大講堂

3 出席者

(委員)

地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所	理事長	石井 実 氏
国立研究開発法人産業技術総合研究所	副理事長	小原 春彦 氏
大阪公立大学 大学院理学研究科 物理学専攻	教授	小菅 厚子 氏
公益財団法人 大阪産業局	専務理事	角谷 禎和 氏
西日本旅客鉄道株式会社元代表取締役副社長(大阪府市特別参与)		土屋 隆一郎 氏

((地独)大阪産業技術研究所)

小林理事長、石木副理事長、

三浦理事兼和泉センター長、静間理事兼森之宮センター長

中出法人経営本部副本部長、

北川経営企画監、坂田経営企画監、萩野研究管理監、渡瀬研究管理監

ほか 法人職員

(設立団体(オブザーバー))

大阪府商工労働部中小企業支援室ものづくり支援課

大阪市経済戦略局産業振興部産業振興課

大阪府市副首都推進局

4 議事要旨

- ・ 委員の中から、地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 理事長 石井氏を本諮問会議の委員長に選出した。
- ・ 法人の概要説明として、PR ビデオを上映したのち、中出法人経営本部副本部長から、第2期中期計画期間(令和4年度～)における取組み概要及び進捗状況並びに第3期に向けた検討課題について説明し、意見交換を行った。

5 主な意見

(1) 技術支援・研究開発の推進について

- ・ 利用者(リピーター)の声だけを聴くのではなく、利用していない人の声も聴いていかなければならない。
- ・ 数値目標については、推移を測るのも大事ではあるが、項目の内容と実情を踏まえ、世間の情勢も見極めて、時代に合わせた目標設定を設置者とともに設定していく必要があるのではないか。

- ・ 利用者はリピーターが多いのか、新規顧客が入ってきているのか、また、分野の傾向など、実績について細かく分析を行うとともに、内部事情と外部環境の両方に視点を向けて、第3期の取組みを設定していくべきと考える。
- ・ 今年の4月から MOBIO と連携して中小企業の支援を強化しているが、連携を通じて、ORIST を利用して成長する企業を増やしていければよい。
- ・ 研究所は外部の流れ(世間の情勢)をキャッチしているようだが、設置者(府・市)自身も将来の技術分野の動向を見据えて、大阪の産業の活性化のために研究所に強化させる分野を考えていく必要があるのではないか。

(2)人材育成・一気通貫の支援について

- ・ 大阪公立大・森之宮キャンパスとの密な連携に期待している。
- ・ 大阪は大きな産業基盤を持っているので、産総研としても引き続き連携していきたいと考えている。
- ・ これからのオープンイノベーションや高度な研究開発においては、人事交流、人材交流の仕組みを考えていく必要がある。協定だけの連携ではなく、人の交流を通じて、人材育成を進めていくことも考える必要があるのではないか。
- ・ 日本はフィジカル AI 分野にチャンスがあるのではないかということで、国でも検討が進められている。AIに関しては、中小企業が現場で使える AI に関する人材育成をされるとよいのではないか。

(3)組織運営、財務・予算について

- ・ エンゲージメントは大事である。研究員をどう評価してどのように報酬に反映させるかというのは難しいが、研究員が取り組んでいることが、どのように役立っているかを研究員自身を感じる事が重要。研究員の社会貢献の「見える化」が大事である。
- ・ 採用については、世の中で必要な分野での人材確保が難しい状況だが、ブランディングを強化して、働きたい研究所と思ってもらうことが大事である。
- ・ (採用で)競合するような分野は、研究所の動画などを通じて目で見て知ることができるようにしてはどうか。
- ・ 法人運営に関して、本部組織を作られたことは大きな取り組み実績である。文化の違う機関を一緒にするには長い目で見ることが必要であり、このような取り組みは重要である。
- ・ 統合から8年たち、ガバナンスの仕組みを作り、就業規則を統一したことで、さらに進化させていく基盤が整った。組織に関しては、基盤を整えさらにそれを充実させてゆくために弛まぬ努力が必要である。

(以上)